

中養タイムズ

大阪市中学校
特別支援教育
担任者会
第90号(3B)
令和4年
9月

～合同うんどう会～

初めての参加

六月一日（水）、ヤンマーフィールド長居で開催された第六十五回合同うんどう会に、生徒十二名、引率教員三名で参加しました。全員、初めての参加でした。

～手話歌～

そして文化祭当日、体育館で上映しました。

一つの作品として、出演した生徒も自分たちが出演している動画を見て盛り上がっていました。

今だからこそできた取り組み

北稜中学校では、毎年、文化祭の取り組みとして合唱コンクールが開催されていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、合唱は二年にわたり中止となっていました。

その中でも、何か出来ることはないか?と、特別支援学級や生徒会、放課後の各種委員会で話し合いが行われました。

そして他校で行われた手話歌の発表会の動画を見つけ、「これならコロナでもできそうだよな!」と案が出てきました。

特別支援学級の生徒同士ではいつでもできる。先生だけではなく、生徒会や各種委員会の力も借りてサポートしてもらい、教えてもらいながら共同作品として発表しようと!ということになり、完成した手話歌を撮影し、スクリーンで上映することとなりました。

青空の下、観覧席で生徒たちと食べたお弁当は、一味違うおいしさがありました。初めての合同うんどう会は、生徒たちにとっても引率した教員にとっても、楽しい時間となりました。

参加して元気な姿を届けてくれた生徒の皆さん、準備に当たつてくださった実行委員の先生方、ありがとうございました。

コロナ禍で、三年間に渡って中止の憂き日をみた合同うんどう会。楽しみにしながらも、中止の連絡を受けてガッカリして、参加できないままに卒業していく子どもたち。

私たち特別支援学級担当教員も、その経験年数から、まさに初めての合同うんどう会となりました。

コロナ禍が生徒たちにもたらしたものは、目に見えるものと目には見えないものを含めて、たくさんあると思います。中止になつたり縮小された学校行事。生徒たちがいきいきとできる場であり、大切な学びの場である学校行事。一期一会のやり直しのきかない場であるとれます。

さて、合同うんどう会当日。参加希望していなかった生徒一名が急遽、「行きたい!」と言い出して、てんやわんや。お弁当にお茶、体操服の準備・・・。

新緑の鮮やかな長居公園。ぽつかり浮かんだ雲の下に、子供たちの元気な声が響いていました。

日頃、運動に馴染みのない生徒が、他校の生徒に触発されて、トラック一周を完走しました。「私も走る!」「オレも走る!」と、続々とトラック走にチャレンジしていく子どもたちの姿に、やる気と熱気は伝播する!ことを、改めて実感しました。

執筆者

「手話歌」 北稜中学校 坂東 美穂教諭
「合同うんどう会」 大淀中学校 西下 貴士教諭

この度は、中養タイムズへ執筆いただき、ありがとうございました。（広報一同）

中 学 校 リ ア ク ス。

玉出中学校

特別支援学級の紹介

今年度、本校の特別支援学級在籍生徒は一年生五名、二年生八名、三年生十一名の計二十四名です。その中には、通常学級との交流をメインに生活する生徒、時間割に合わせて特別支援学級教室で授業をする生徒など様々な生徒がいます。

開業!! 玉出農園

本校の特別支援学級には玉出農園があります。この農園を始めたきっかけは特別支援学級に在籍していたRくんとSくんという二人の生徒の存在でした。二人はその特性から集団生活が苦手で、「登校しない状態でした。」そこで、特別支援担任たちで知恵を出し合い、生徒たちが、人間関係や勉強のプレッシャーから一時的に解放される場として玉出農園は生まれました。はじめは、「先生と一緒に水やりに来るだけ」の約束からスタートしました。この時二人は大きな一步を踏み出しました。

た。その後、滞在時間は短いながらも定期的に登校できるようになり、小玉スイカときゅうりの収穫時には、生徒自身が時間を忘れて作業するまでになっていました。そして、その成果物を通常学級担任のH先生に見せに行きました。この時、H先生からの提案で、一人が登校しているときは、H先生が特別支援学級教室に会いに来てくれるようになりました。

自由に自分を表現する場

定期的に登校できるようになった二人は、学校に対する恐怖心が徐々に減っていき、次のステップに入ろうとしていました。玉出中学校では自立活動の一環として、文化発表会において生徒たちの作品を展示しています。作品作りに使える時間が限られている中で、自分の作業ペースを考慮し、

Yさんは指定難病を患っていて、感染症が命に関わります。臓器の移植や検査入院などで登校できる日が限られている中で、本人は「クラスに入つて友達に会いたい」と言う反面、「クラスメイトに会つて話せるか不安」とも言つっていました。そんな中、新型コロナウィルス感染症の拡大が追い打ちをかけ、登校できない日々が続きました。そんなYさんも今年は三年生、修学旅行の時期が近づいてきました。本人の強い希望で修学旅行への参加は決定しましたが、課題は山積みでした。積極的に参加したい本人と、体力や感染状況を鑑み、安全化発表会において生徒たちの作品を展示してきました。作品作りに使える時間が限られています。作品作りに使える時間が限られている中で、自分の作業ペースを考慮し、作成したいものを決定します。作品は、木工などの大掛かりなものもあれば、ナノブロックやアイロンビーズのように細かい



最後に

私が執筆した内容以外にも、玉出中学校の特別支援学級にはさまざまな生徒がいます。教職員の皆さんのが、子どもたち一人ひとりの特性を理解して受け入れてくれます。Yさん本人の不安が徐々に払拭され、修学旅行の取り組みのため通常学級と交流できるようになっていきました。Yさんを温かく迎えてくれた通常学級のみんな、そんな雰囲気作りをしてくださる担任の先生には感謝しかありません。このような恵まれた環境の中で、Yさんも修学旅行に安全に参加できました。Yさんは、修学旅行で新しい友人ができたようで、現在体

大阪市立玉出中学校 小林 亮太

大阪市中学校
特別支援教育
担任者会
第91号(4B)
令和4年
11月

ことができました。後日、展示作品のアンケート結果を見た際、二人はとても喜んで自信をつけたようでした。そして、二人の口から「(通常学級の)教室に行ってみたい」という言葉が自然と出てくるようになりました。今後の彼らの成長が楽しみです。

調が良いときは、給食を通常学級のみんなと一緒に食べています。たとえ調子が悪く、通常学級に行けなくとも、クラスメイトが進んで、特別支援学級教室にいるYさんのために給食を運んでくれています。

中 癒 ア ド ラ ス。

特別支援学級 在籍生徒のようす

柴島中学校は現在、一年生・四名、二年生・七名、三年生・三名の十四名が在籍しています。教科によって支援教室（プレイルーム）で学習に取り組む生徒や、教室で通常学級の生徒と同じ内容の学習に取り組む生徒がいます。その中で、今回は二年生の男子生徒の様子をご紹介したいと思います。

一年生になつて・・・

男子生徒Kくんの紹介をしたいと思います。Kくんは人との接し方がなかなか難しい男の子ですが、教室で楽しそうにしている同級生の中にスッと入つていくようなことがあります。周りの状況を読めないまま、輪の中に入るので、同級生がKくんのことによく理解してくれているおかげで、輪の中に入つていってもそのことに関して文句や嫌なことを言う生徒はいません。柴島中は一小一中なので、九年間一緒に過ごすことになります。そのおかげでKくんへの接し方や注意の仕方などは慣れたものでした。

本校では、体育大会と文化祭を一つにまとめた柴中フェスタという行事があります。体育大会では全学年縦割りで二つの団に分け、団長を中心取り組んでいます。そこで応援合戦があるので、Kくんは覚えることが苦手で、それを理由に団の練習がある日は登校を渋ることが多くあります。学校に登校しても「しんどいから帰りたい」「学校がめんどくさい」。団の練習以外にも理由はあるのか、教員や保護者も悩んだところでしたが、本人が一番悩んで辛かった時期だと思いました。そんな悩みの種のフェスタでしたが、当日参加することができ、競技にも一生懸命取り組み、何より応援合戦も最後まで諦めず、やり切ることができました。覚えられないことに悩んでいましたが、体育大会が全て無事に終わると、ホッとしたのか久々に笑った顔を見ることができました。その後の文化祭では劇の道具係として同じ係の生徒と協力して道具を作りあげました。行事が近づくと不安になることもありましたが、それ以降は登校を渋ることもなく、現在は学校が楽しい言いながら、毎日登校し、教室でも同級生と楽しく過ごしています。

大阪市中学校
特別支援教育
担任者会
第92号(1B)
令和5年
2月

一泊移住 出発

二年生の十一月に、吹田にある「おくわくの郷」へ一泊移住に行きました。コロナの影響で延期になっていた一泊移住でしたが、実施できることになりました。行事に不安を抱えるKくんですが、一泊移住は意欲的で、家でも「行きたい」と意思を示すこともあります。宿泊ということもあり、私たちが不安になることもありました。問題もなく見守ることができました。自然の中でのレクリエーションや野外炊飯など、Kくんが普段味わうことのない体験を行い、充実した一日間を終えることができたと思います。また何よりも同級生がKくんを支えてくれたことでした。一小一中で過ごしてきた彼らですから、どのような声かけや支え方が適切かなどを理解し、こちらが見守る程度でよかつたし、Kくんも教師に何か言われるより、同級生に言われる方がいいと感じた一日間でした。



キャリア教育支援センターの実習風景です

名刺の受け渡しを練習しました



進路に向けて

そんなKくんも四月には三年生になります。受験生としてKくんが自分で選んだ進路に進めるように・・・また、その先を見据えて、保護者の方と連携を取りながら進めていきたいと考えています。

柴島中学校に勤務して四年目が終わるうとしています。この四年間の中でも、たくさんの中学生たちと関わってきました。生徒たちが無事に卒業していくのも柴島中学校の教職員の方々、サポーターの方々また保護者の方の協力のおかげだと思っています。今後もたくさんの中学生たちとの関わりがあると思いますが、これからも変わることなく、生徒たちの成長していく姿を見届けていけたらと思います。